

三木稔のミニ自伝



- 1930 徳島市に生まれる。旧制徳島中学から、連合艦隊司令長官を夢見て海軍兵学校予科に入学した。
- 1945 しかし半年で終戦。理論物理学者を目指して旧制六高理科に入るが、そこで始めた合唱による音楽体験に没入、岡山の民間合唱団をプロデュースして18歳で「メサイヤ」を仲間と上演。秘かにベートーヴェンを目指して学者から作曲家志望に転換して1951年東京藝術大学音楽学部作曲科入学。フランス楽派といわれた池内友次郎先生、次いで民族楽派といわれた伊福部昭先生に師事して映画の世界を知り、同時に民族的志向を自分ながらの現代技術習得と並行して深めていく。
- 1953 NHK芸術祭管弦楽曲公募に際し《交響的三楽章》が入賞、クルトウエス指揮N響が初演。
- 1955 芸大卒業の年、父が早逝。以後350本担当した映画や、放送の劇伴作曲で生計を立て、演劇・舞踊等の仕事にも関わったが、当時はオーケストラ偏愛で、書いた二大交響曲はお蔵のまま。
- 1960 合唱作品を集中して書く。また邦楽器を映画等で使用して、音楽の価値観認識を変えていく。
- 1964 《くるだんど》舞台初演の夜、氣勢が上がった奏者たちに邦楽器協働の必要を力説して日本音楽集団を創立、84年まで作曲・音楽監督と内外でのプロデュース等を、まこと献身的に推進する。
- 1968 初海外公演となった《阿波》を含む東京リーダーターフェル渡独に参加。安倍圭子リサイタルに書いた《マリンバの時》は、後の《マリンバ・スピリチュアル》などと世界に広がる契機となる。
- 1969 二十絃箏(のち新箏(にいごと)21絃)開発に関わり、集団と同様活発に作品とプロデュースで活動。
- 1970 コロンビア4枚組LPアンソロジー『日本音楽集団による三木稔の音楽』で芸術祭大賞受賞。
- 1972 日本音楽集団の初海外公演を東西ヨーロッパで。以後ほぼ毎年世界各地を廻るプロデュース。
- 1973 集団の練習場を求めて東京音楽大学非常勤講師(2004-07年、客員教授)。独特なゼミを行う。
- 1975 日本オペラ協会委嘱オペラ《春琴抄》で多くの批評や音楽家たちの支持を得ると同時に、その作曲でジロー・オペラ賞受賞。『三木稔、日本史オペラ連作』の第1作となり。各地での上演も多い。
- 1976 大島渚監督の映画「愛のコリーダ」のための音楽を作曲。京都市民映画賞受賞。テーマ曲広がる。
- 1978 2ヶ月に亘る日本音楽集団世界一周公演を企画、アテネ野外・カーネギーホールなどで大収穫。
- 1979 イングリッシュ・ミュージックシアター委嘱オペラ《あだ》ロンドンで世界初演。ガーディアンは「三木稔は誠に天賦の才能を持ったドラマティックな作曲家」。81米、84日本語、78独語初演。
- 1981 ゲヴァントハウス管弦楽団命名200周年委嘱《急の曲》の完璧な世界初演で『鳳凰三連』完結。
- 1983 日本音楽集団北京・上海公演。《彩虹序曲》を作曲、史上初の2国間民族楽団共演で初演。当時大学や院生で西欧志向だった100人超の中国作曲家に、民族のアイデンティティを生かした三木作品群が今後のアジアの可能性を教えたとして、評論の李西安や譚盾初め現在世界で活躍する作曲家たちから好意や感謝を受け、以後度々中国のコンクールの審査や講演・演奏に招かれる。
- 1984 セントルイスオペラ劇場委嘱オペラ《じょうり》世界初演。英語圏最高のオペラ評論家アンドリュー・ポーターが「三木は個性的で、しかも高度に表現力をもった音楽言語をもって、日本と西洋の要素を最も成功裏に結びつけた作曲家」等々と評した。88年日本初演、05年日本語初演。
- 1986 日本史連作のような大型の歴史オペラと違って、機動性のある音楽劇創造を目指した歌座(現三木オペラ舎)を主宰して創立。《うたよみざる》は90年芸術祭賞、全国上演も260回に達し、幾つもの秀作が生まれたが、制作を任せたマネージャーによって経営は破綻し、残念ながら休止状態。
- 1990 マルチカルチャーの結アンサンブルを主宰して創立、芸術監督。内外で毎年様々な企画で公演。二期会・都響がサヴォンリンナ・オペラ祭で《春琴抄》を上演。数十紙の完璧な絶賛を受ける。
- 1993 日中韓の民族楽団を組織してオーケストラ・アジアを結成、9年間作曲と並行して芸術監督。
- 1994 紫綬褒章受章。春にアデレード芸術祭招待作曲家、秋にニューヨークフィルでの《急の曲》米初演に招待される。ニューヨークタイムズは「三木と比べてリムスキーは臆病者！」等々痛快な評。
- 1996 長年の課題だった『日本楽器法』を音楽之友社から出版。4年後中国語版、英語版も2008年出版。
- 1997 中国琵琶の天才奏者シズカ楊静をソリストに《琵琶協奏曲》作曲。内外の演奏で完璧な批評。
- 1998 邦楽創造集団オーラJ創立、現在まで芸術監督として、主として企画面の努力を続けている。
- 2000 セントルイスオペラ劇場委嘱オペラ《源氏物語》世界初演。ウォールストリート紙のハイディ・ウォールソンは「三木の音楽は雰囲気満ちた傑作」と書く。01年日本初演。この年、旭日小綬章受章。しかし11月《大地の記憶》初演成功の最中に第三期進行がんとして前立腺がんが発覚。
- 2002 アジアの高度の楽器の最高の民族楽器ソリストたちによるアジア・アンサンブルを主宰して創立。
- 2006 新国立劇場委嘱オペラ《愛怨》世界初演で『日本史オペラ8連作』が通貫する。このオペラの受容され方は内外とも並でなく、ハイデルベルク市劇場がWhat a beautiful masterpiece!と感動を寄せ、2010年にドイツ初演をさせて欲しいと申し入れてくる。2月20日初日で約10回上演。この2006年8月、東西音楽交流の実践の場として八ヶ岳「北杜国際音楽祭」を主宰して創設。Luzerne Chamber Soloists、シズカ楊静等のゲストを迎えて北杜市と共催で初年度を遂行した。全国現代邦楽合奏団コンヴェンションを3年間併設、熱心なアマチュア奏者たちの糾合を計った。
- 2007 幸運にも2年目より(株)アルソア本社のNPOが主催に加わり、事務局を担当してくれている。
- 2009 硬膜下血腫や大腸がんなど半年に4度の手術という受難の中で第20回福岡アジア文化賞の芸術・文化賞を日本人で初受賞。芸術監督として音楽祭4度目の夏を無事終え、エコオペラも書いた!

2009年12月6日

三木 稔

